

5月沖縄現地へ!

2014年5月13日
No.193

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

沖縄大自治会再建で キャンパスに「革命」を!

沖縄大学学生自治会復活会代表・赤嶺知晃(法経学部2年)

【1】今次沖縄闘争にかける決意

全国学生のみなさんに、5月沖縄闘争への結集を呼びかけます! 4月24日に行われた日米首脳会談は、危機の中で中国への侵略戦争に活路を求めるオバマと、戦争・改憲に向けて戦後一度も制圧できなかった沖縄の人々の怒りを抑えつきたい安倍によって、辺野古新基地建設が一層強く進められていくことが確認されました。

このオバマ・安倍的基地建設への突っ込みは、両者の「強さ」を表すものではありません。

全世界で労働者・学生の「生きさせろ!」の決起が安倍・オバマを追い詰める中で、この危機を外への戦争によって乗り切ろうと基地建設に躍起になっています。逆に言えば、基地建設を労働者・学生の力で阻止することができれば、今の支配体制をひっくり返すことができる大きな展望を持っているということです!

私たちは、基地をなくし、戦争を止め、この社会をひっくり返すために、今年、沖縄大学で学生自治会再建に挑戦することを決意しました!

安倍が金や暴力(反対運動への刑特法での処罰の検討)など手段を選ばず基地建設に突っ込むほど、人々の怒りは燃



え上がっています。沖大においても、目に見えて沖大生の怒りを感じます。職員の妨害がありながらもビラはどんどん受け取られ、弾圧職員が後ろにいながら改憲と基地建設に反対する署名をしてくれる学生もいます。

沖大当局は沖大生の決起を恐れ、今年から学内でのビラまきを一切禁止し、学生主催の「改憲と基地建設に反対する講演会」への教室使用を拒否してきました。

今の安倍の支配は、沖縄はじめ全国のキャンパスや職場において、学生や労働者の決起を抑えることで成り立っているものです。このキャンパスでの支配を学生の団結した力でうち破ることができれば、基地建設も安倍・オバマの戦争策動もうち砕くことができます!

沖大での闘いは、ビラまきへの反応を見ても分かるように、当局とのギリギリとした攻防になっています。沖縄の労働者・学生が職場やキャンパスの抑圧の中で何とか立ち上がろうとしています。5月沖縄闘争で沖縄と全国の労働者・学生の合流を実現し、怒りの解放をかちとることができます! 5月沖縄闘争に集まり、労働者・学生の団結した力で基地建設を阻止し、この社会をひっくり返す闘いをしよう!

【2】沖大自治会再建を目指すまで

私の通う沖大は、教授の多くが地元紙などで改憲・基地に反対の立場で登場し、大学パンフでは「学生が主人公」を掲げ、「リベラルな大学」として地域に根付いています。

しかし、去年私が入学して分かったことは、非正規職の割合が全国トップの沖縄の現実を「仕方ないもの」とし、「このクラスの6割が非正規職になる、だから頑張れ」(キャリアデザインの講義)と競争を煽り、「(最低賃金以下で雇われても)解雇されるかもしれなから、声を上げない方がいい」(労働法専門の教授)と、職場で声を上げることを学生のうちに抑えつけるという新自由主義大学・沖大の実態でした。



5・10動労水戸ストライキで斎藤委員長が連帯発言!(いわき駅前)

“リベラルな大学”のイメージとは裏腹に、経済学の授業で安倍政権の行う基地建設と金融緩和政策を礼賛し、学生から安倍政権を批判する意見があがると慌てて「大学は政治活動をする場ではない！」と説教を垂れる。こういう「授業」を許しているのが沖大であるし、1年生の必修の授業では、米総領事・マグルビーを呼んでオスプレイの有効性を説く講演会をさせました。

一番許せないのは、誰もがこの沖大のあり方に怒りを持っていながら、4人に1人がやめていく高い学費やバイト漬けの日々、仲間との競争を煽られる中で沖大生が一つになって声を上げられない状況に置かれ、こうした大学の姿が許されているということです。

私の友達は「『大学の主人公だ』なんて感じたことない」と言っていました。「本当にこんな沖大の現状を変えたい」と立ち上がった沖大生の有志で、昨年「学生自治会復活会」が結成されました。

【3】現在のキャンパスでの攻防

安倍が進める改憲・戦争と基地建設への怒りがこれまでになく高まる中で、今こそ沖縄大学に学生自治会を再建しようと復活会はキャンパスに公然と登場し、自治会再建に向けて闘っています！

復活会の登場に恐怖した沖大当局は、すぐさま復活会への教室貸し出し拒否やビラまき弾圧を仕掛けてきました。それに対し、復活会は教室使用拒否に対して怒りのメッセージを集め、メッセージは1週間で30筆以上集まりました。沖大当局の弾圧を逆のものに転化し、復活会の名前と闘いを沖大生に分かりやすいかたちで示すことができました。

教室を使うことはできませんでしたが、多くの沖大生が集まり4月18日の新歓講演会は大成功しました。講演会の成功にさらに追い詰められた沖大当局は、復活会へのネガティブキャンペーンを行いました。それに対し、すぐさまビラやクラス討論で当局のネガティブキャンペーンを弾劾し、学内で「復活会とは何なのか？」「当局と復活会どちらが正しいのか？」という議論をつくり出しています。

4月開講からの1カ月、復活会は大学当局と激しく闘ってきました。1ヶ月の闘いの中で「基地建設反対」を掲げる仲地博学長体制のペテンを暴きました。

10年前に辺野古新基地建設を止めた力は、紛れもなく全国の学生・労働者の実力闘争です。「基地建設反対」と言いながら、学内で学生の決起を弾圧する仲地博は安倍政権を左から支えるものでしかありません。仲地学長体制は追い詰められた沖大の最後の支配形態であり、「次」はありません。

最初にも述べたように、復活会と当局との間でギリギリとした攻防が続いています。この「壁」を突破できれば、必ず多くの沖大生の怒りと結びつくことができます。

私たちは、学生自治会再建に向けて5月19日(月)に沖大キャンパス集会を企画しています。案の定、沖大当局は復活会の集会のための施設使用を拒否しています。

しかし、学生の自治や権利が奪われきった沖大で学生が集会をうち抜くことは、キャンパスに「革命」が起きるくらい大きなインパクトを持っています。

5月17日の国際通りデモと「復帰42年」の5・17沖縄集会、5月18日の全国学生交流集会を大成功させた勢いで、いよいよ5月19日、『沖大生の力で戦争とめよう！ キャンパス集会』をうち抜きましょう！

【当面する行動方針】

○5・17~19沖縄現地闘争

辺野古新基地建設阻止！「改憲・戦争」の安倍政権打倒！ 学生自治会を甦らせよう！

◆5月17日(土)

正午 沖縄県庁前に集合～ひめゆり平和資料館を見学

16時～ 県庁前から那覇市・国際通りデモ

18時～ 「復帰」42年5・17沖縄集会 @沖縄県青年会館・大ホール

◆5月18日(日)

午前 普天間基地と嘉手納基地を見学

14時～ 沖縄県民大会

18時～ 全国学生交流集会 @那覇市ぶんかテンフス館・4階ホール

◆5月19日(月)

12時10分～ 「沖大生の力で戦争とめよう！ 沖大キャンパス集会」



○6・13法大処分撤回第6回裁判

6月13日(金) 16時～ 東京地裁・615号法廷にて ※傍聴券配布のため30分前までに裁判所脇に集まって下さい